

編集後記

今年の夏も大変な酷暑になりました。日本各地で最高気温が35℃を超える猛暑日が続き、観測史上最多となったそうです。私の学生時代は屋外で真っ黒になってテニスに打ち込んだものですが、名古屋市でも最高気温が40℃を超えるようになり、今では命の危険すら感じます。蝉の声を聞きながら外で遊んだ夏の思い出は、今では「危険な暑さ」と背中合わせになってしまったようです。冷房の効いた室内に避難することが当たり前になり、子どもたちの夏休みの風景も昔とはすっかり変わったように思います。

実際、熱中症予防には「暑さ指数（WBGT）」が用いられ、屋外での活動指針に反映されています。暑さ指数は湿度・日射や輻射など周囲の熱環境・気温の3つを取り入れた指標で、日本生気象学会や日本スポーツ協会が生活・運動の目安を示しています。例えば、暑さ指数が31以上（危険）では高齢者は安静時でも熱中症のリスクが高く、外出を控えることが勧められています。また気温35℃以上・暑さ指数31以上では、子どもや若者を含めて「運動は原則中止」とされ、多くの学校で実際に取り入れられています。せっかくコロナ禍での外出制限がなくなったところに、今度は酷暑によって活動が制限される一本当に生活環境の変化を実感するこの頃です。私たちはその変化に応じて注意と対策を続けていかねばなりません。

この酷暑の背景には、太平洋高気圧とチベット高気圧の重なりやラニーニャ現象が推測されています。日

本列島を広く覆った暖気が大きな要因ですが、やはり地球温暖化の影響は無視できません。「人為的な温暖化がなければ、この高温が生じる確率はほぼ0%である」との研究もあります。カーボンニュートラルへの取り組みはまだ道半ばですが、次の世代に美しい地球を残すため、一人ひとりの努力が求められていると感じます。

さて、本号の特集は「骨粗鬆症の予防・治療と最新トピックス」です。ご企画の宗圓 聡先生をはじめ、貴重な原稿をお寄せくださった著者の先生方に心より感謝申し上げます。酷暑の影響もあり、骨粗鬆症患者さんに日光浴や運動療法を勧める際にも、これまで以上に配慮が必要となっています。しかし、超高齢社会の進展に伴い患者数は増加しており、「健康日本21(第三次)」では骨粗鬆症検診率の向上も重要な課題とされています。

本特集では、骨粗鬆症の疫学から検診の必要性、予防、栄養・運動療法、薬物療法、骨折リハビリテーションまで幅広く取り上げ、詳細かつわかりやすく解説いただきました。さらに今年は10年ぶりに『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版』が発刊され、読者の皆様にとっても大変関心の高いテーマかと思えます。本特集が検診率の向上や適切な治療の普及につながることを心から願っております。

(今釜史郎)

「整形・災害外科」第68巻 第11号（10月号） 2025年10月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 47,960 円（本体 43,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株) 文京メディカル TEL 03(3817)8036
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。